

2019年 5月 14日

GOOP トリプルカード みやぎスマイル基金 助成活動報告書

みやぎ生活協同組合 理事長 宮本 弘 様
株式会社日専連ライフサービス 社長 羽生正弘 様

団体名	介護者サポートネットワーク・ケアむすび
団体所在地	〒985-0053 宮城県塩竈市南町11-1 (団体電話) 090-3361-7733 (団体FAX) (団体e-mail) (団体ホームページ)
代表者名	東海林 良昌 (役職) 代表
連絡担当者名	(役職)
連絡担当者 住所・連絡先	

1. 助成事業報告

事業名	「まなざし」上映会
目的	介護者を描いた「まなざし」を上映し(入場料無料)、家族介護者への理解を深め、当会で実施している介護者サロン等の協力者をふやすとともに、新たに介護者サロンを立ち上げるきっかけとなることを目的とする。
実施内容	実施日:平成30年5月20日(日) 会場:塩竈市雲上寺、せんだいメディアテーク 参加者:延約50人 内容:介護者を描いた映画「まなざし」の上映 監督を招いた映画解説 参加者との意見交換

開始から終了までの流れ	<p>4月 監督との交渉 スタッフ打ち合わせ 広報活動（チラシ作成、河北新報掲載分）</p> <p>5月 監督との打ち合わせ スタッフ打ち合わせ</p> <p>5月20日 上映会実施 AM 塩釜市雲上寺にて PM せんだいメディアテークにて</p> <p>6月 スタッフ振り返り</p>
活動の成果と教訓	<p>今回の上映会を実施した所、多くの方が参加され、介護及び介護者についての関心が高いことを改めて認識することができた。</p> <p>また、監督をお招きし、介護に対する思いを参加者と共有することができ、介護者への理解を深めるという当初の目的を達成することができたと感じている。</p> <p>一方で、介護者への支援の輪を広める部分については、もう少し積極的な呼びかけが必要だと考える。</p>
今後の展望など	<p>より多くの方に介護者への理解を深める機会を検討するとともに、支援協力者を増やすよう努力していきたい。</p> <p>そのきっかけとして、今回の上映会を実施できたことが大きな一歩と捉えている。</p> <p>上映会を実施するにあたり、助成をいただきありがとうございました。</p>

2. 助成金使途報告書

■ 収入の部（助成の対象となった事業の分のみ）

確保した資金内容	金額（円）	備考
みやぎスマイル基金助成金	200,000	
自己資金	1,777	
合計	201,777	

■ 支出の部（助成の対象となった事業の分のみ）

費目	内容	予算額(円)	実支出額	助成金からの 支出額
使用料	会場使用料	15,000	11,700	11,700
	プロジェクター等	20,000	6,750	6,750
	上映料		50,000	50,000
報償費	監督謝礼	50,000	50,000	50,000
広報費	チラシ印刷代	30,000	30,066	30,066
消耗品費	コピー用紙、封筒等		6,913	6,913
通信運搬費	郵送料	10,000	6,569	6,569
会議費	茶菓代	10,000	1,489	1,489
旅費	監督交通費	25,000	30,000	30,000
	監督宿泊費	15,000	0	0
	スタッフ交通費	32,000	8,290	6,513
合計		207,000	201,777	200,000

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3. 送付必要書類

- (1) みやぎスマイル基金 助成活動報告書
- (2) 領収書のコピー（助成金から支出した分のみ）
- (3) 成果物（活動をまとめた冊子、パンフレットおよび写真など）

その朝をむかえるまで

まなざし
The Look

介護者サポートネットワーク・ケアむすび主催

映画『まなざし』上映会・解説

2018年5月20日(日)

[塩竈会場] 10:00~12:00

雲上寺 仏教文化会館サンガホール

[仙台会場] 15:00~17:00

せんだいメディアテーク7F スタジオシアター

入場無料・申込不要

誰もが経験する老いと介護。超高齢社会の深刻な一側面である「介護者の葛藤」を描いた映画『まなざし』の上映会を塩竈と仙台の会場にて同日開催いたします。上映後にはト部敦史監督による映画解説があります。共に生きる“リアル”は、私たちに何を教えてくれるのでしょうか。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

共に生きること、それは愛の始まり

圧倒的なリアリズムで描かれる
「介護」の今と希望の物語

出演：
根岸季衣
山崎満
入江崇史
松永拓野
矢崎まなぶ
ほか

バンコク
世界映画祭2015
ドイツ・ニッポン
映画コレクション2016
正式出品作品

介護職員として田舎町で暮らしているヨウコ。その平穏な日常は、服役していた父・シゲユキの出所により終わりを告げる。長期の服役生活で寝たきりになっているシゲユキ。ヨウコは悩んだ挙句、シゲユキを家に受け入れることを決意する。シゲユキの世話をし始めながら次第に呼び起こされていく憎しみの感情。疲弊していくヨウコの姿を静かに見つめながら、シゲユキは“あること”に思いを巡らせていた。残されたわずかな時間。絶望の淵にいた二人が、視線の先に見た小さな光とは――

父を介護する主人公ヨウコを演じるのは今もなお日本映画界に欠かせない女優、根岸季衣。疲弊していく女性を演じるにあたり6キロの減量に臨み、社会から孤

立していくヨウコという役柄に自身を近づけるため、撮影中は監督以外のスタッフ・キャストと会話を一切せずに距離を置くという徹底した追い込み方で役作りに挑んだ。本作は監督が実際に現役介護福祉士として働きながら、そこで見たこと、聞いたこと、触れたことを経験として厳しい現実を見据えた上で、その先にある一筋の希望を描いている。

また、劇中ではエンディングを含め映画音楽を一切排し、セリフも必要最低限のみで、親子のコミュニケーションはまさにタイトル通り「まなざし」を持って描かれるという挑戦的な作り方をしている。本作で描かれる家族の絆、そして人を受け入れたことから始まる小さな希望。観る者の価値観を揺さぶる美しいラストシーンに誰もが感嘆するだろう。

きれいごとや道徳で描けないのをパンクで見た。人生は偶然だらけ。それをどう乗り越え、どう受け入れ進むか。エンディングは皆さんにあります。思い出すシーンもあり、私涙でました。映画は荒けずりだからこそリアルや！ 皆さん！ えぐられるようなこの作品、是非ご覧ください。

―― 綾戸智恵 (ジャズシンガー)

人は人を、国籍で見る人がいる。容姿で見る人がいる。心を見る人がいる。そして生命をただただまっすぐに見る人もいる。この深いまなざしがこの映画にはある。

―― 遠藤憲一 (俳優)

父娘の話ながら、これは家族愛の物語ではない。憎しみは捨てきれぬまま、目の前の人間の困難に手を差しのべる人間愛についての物語だ。緊張をはらみつつ崩れゆく日常が夜の場面として描かれるなか、一際まぶしいラストの朝の風景が、人間の脆さの中に見出された希望のようにひたすら美しく、挑戦的な状況設定と共に、映画にずしりとした風格を与えている。

―― 寺尾紗穂 (音楽家・エッセイスト)



監督・脚本・編集：卜部敦史

撮影監督・脚本・編集・プロデューサー：堀井威久磨 / 助監督・制作・プロデューサー：大越康男 / 録音：吉永篤史、前田穂高、梅村竜矢

特殊メイク：浅海雅俊 / ヘアメイク：中村ひろ子、熊田美和子 / 撮影助手：今村折履 / 照明助手：柴井ひでき / スチール：池田理春、周藤正憲 / 整音：前田穂高

介護技術指導：雨下美沙 / 介護技術協力：大越栄子 / 英語字幕：仙野陽子 / 翻訳：蔭山歩美 / 題字：佐々木皋蘭 / 協賛：株式会社ソラスト ©2016『まなざし』製作委員会

2018年5月20日(日) 塩竈 / 10:00~12:00 仙台 / 15:00~17:00

[塩竈会場] 雲上寺 仏教文化会館サンガホール (塩竈市南町11-1) <http://unjoji.com/>

[仙台会場] せんだいメディアテーク7F スタジオシアター (仙台市青葉区春日町2-1) <http://www.smt.jp/>

問い合わせ先 / 担当 東海林

☎ 090-3361-7733
nenyo35@yahoo.co.jp